

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

変化の激しい社会の中で、豊かな感性、確かな学力、あくなき探究心をもって生き抜く子どもたちを育てる学校

- 1 学びに向かう意欲を高め、自己実現に導く教育活動を展開する。
- 2 確かな信頼関係を基盤に、豊かな人間力を育む教育活動を展開する。
- 3 先進的・先導的な教育実践に、教育センターと一体となって取組みを進める。

2 中期的目標

1 豊かな感性の育成

(1) 多様性を認める人間関係のはぐくみ

- ア 誰もが個性や趣向を肯定され、安心して学校生活を送れる居場所としての集団づくりを進める。
- イ 人権教育を基盤とした生徒指導と細やかな生徒観察により、課題の早期発見に努める。
- ウ 情報リテラシーの育成を図る。

※学校教育自己診断（生徒）で「クラスには自分の居場所がある」の肯定的回答率（H30：82.6%、R01：81.6%、R02：84.1%）を令和5年度には85%以上にする。

(2) 安全で安心な学びの場とするための環境整備

- ア すべての教職員が危機意識を持ち、危険予知に関する知識と緊急事態への対応能力を向上させる。
- イ 生徒が気軽に相談できる環境を整備する。
- ウ いじめを見逃さない教職員集団を作る。
- エ 中学校等との連携を進め、教育相談体制のさらなる充実を図る。

※学校教育自己診断（生徒）で「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定的回答を（H30：63.2%、R01：60.8%、R02：67.5%）を前年度比で増加させ、令和5年度には75%以上にする。

※学校教育自己診断（保護者）で「学校は、生徒をきめ細かく、多面的にサポートしている」の肯定的回答を（H30：73.4%、R01：65.6%、R02：67.9%）を前年度比で増加させ、令和5年度には75%以上にする。

2 確かな学力の育成

(1) 教育センターと一体となった教育実践の研究

- ア タブレットを活用した授業についての研究・実践を重ね、成果を発信する。
- イ 観点別学習状況評価についての研究・実践を重ね、成果を発信する。
- ウ 授業研究やカリキュラムマネジメントにおけるアドバイザーとして教育センターのリソースを活用する。

(2) 基礎学力の定着をめざした授業研究・改善への取組みとその成果の発信

- ア 知識・技能の活用を図り、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を育む。
- イ 学びを活かそうとする意欲の向上を図る。
- ウ 読解力の育成・充実を図る。

※学校教育自己診断（生徒）で「授業はわかりやすく、教え方に工夫してくれる先生が多い」（H30：54.7%、R01：53.9%、R02：63.5%）を前年度比で増加させ、令和5年度には75%以上にする。

3 あくなき探究心の育成

(1) 探究活動の充実とその成果の発信

- ア 教科横断型である探究ナビを本校教育活動の軸と位置付け、活用型の授業に取り組む。
- イ 「社会人基礎力」の育成を意識した授業実践を行う。

(2) 自ら学ぶ生徒の育成

- ア 自ら学びに向かう力を育成し、授業以外での学習習慣を付けさせる。
- イ 卒業生の進路未決定率を3%未満にする。



【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒】</p> <p>○肯定的評価が増加した主な項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の施設・設備に満足している（34.8%→49.3%） +14.5% ・授業では、実験・観察・実習をしたりすることがよくある（46.1%→53.9%） +14.1% ・この学校には、他人に自慢できることがある。（47.8%→60.8%） +13.2% ・学校行事は充実して楽しい（66.3%→77.3%） +11.0% ・先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる（70.6%→80.3%） +9.7% ・コンピュータやプロジェクタなどを使った授業がある（80.7%→90.2%） +9.5% <p>○肯定的評価が減少した項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある（82.8%→81.6%） -1.2% 	<p>第1回（書面開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教育産業実施の学校オリジナル質問」の回答結果から、「探究ナビ」等の活動を通じた生徒の成長が垣間見えるように感じた。また、それぞれの教科で生徒の興味関心を育てることができているように感じられ、先生方の教育の成果が現れているように感じた。それから、個人的には、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」)で、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答する生徒が、学年進行とともにもう少し増えてくれたらと願っている。時間の制約もあり、なかなか難しいかも知れないが、社会とのつながりを、うまく、学びのモチベーションにつなげていければ理想的。

<p>【保護者】 ○肯定的評価が増加した主な項目 ・学校の行事は、活発に行われている（66.1%→75.1%）+9.0% ・学校は、保護者の願いや期待にこたえようと努力している（71.6%→77.4%）+5.8% ○否定的評価が増加した主な項目 ・この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある（51.4%→40.7%）-10.7% ・学校のPTA活動は、活発に行われている（69.8%→67.6%）-2.2%</p> <p>【教職員】 ○肯定的評価が増加した主な項目 ・校長はリーダーシップを発揮し、教職員の意見が反映された学校運営に努めている（35.3%→73.7%）+38.4% ・学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている（69.7%→100.0%）+30.3% ・教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている（70.6%→92.9%）+22.3% ○否定的評価が増加した主な項目 ・教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる（100%→91.1%）-8.9% ・全ての生徒が意欲的に取り組む授業をめざして、日常的に創意工夫を凝らしている（91.2%→86.7%）-4.5% ・生徒や保護者の声に耳を傾け、願いや期待に応える努力をしている（94.1%→91.1%）-3.0%</p> <p>今年度のアンケート結果について、生徒の回答 23 項目のうち 22 項目において肯定的回答が増加し（昨年度は 19 項目）、中でも生徒の自己肯定感の向上に関する内容項目における肯定的回答の増加が顕著である。また、昨年と引き続きコロナ禍において教育活動の制限がかかったため、「学校行事は楽しい」の肯定的回答は、昨年度と比較して上昇したものの、まだ上昇の余地がある。今年度は、1人1台タブレットの貸与や、教室への電子黒板機能搭載プロジェクタの設置もあり、学校の施設・設備に関する肯定的回答は大幅に上昇した。それに伴い、授業改善に関する質問項目に関する肯定的回答についても、上昇していることが認められる。今後もこれらの取組みは継続して進めていくことで、教え方の工夫に関する項目の肯定的回答を増加させていきたい。一方、保護者の回答結果からは、昨年と引き続きコロナ禍もあり、教育活動が制限された中で、PTA活動、学校行事や地域連携に関する項目は否定的回答が認められる。 教職員の回答結果からは、校長のリーダーシップに関する評価はかなり改善された。</p>	<p>第2回（12/17）</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した教育では、ワープロソフトのコンテンツを使用して、同時双方向の学習環境を整えていることだが、確立した取り組みがあれば教えて欲しい。 情報が氾濫している社会の中で、そのような情報をどのような取捨選別し使うことが出来るかが問われている。また、他人の意見を聞きつつ、自分の意見をどう言えるか、といった観点も取り入れ教育して欲しい。 探究ナビや教科学習のどちらが先ということではないが、育成すべき力として、「発信する力」と「聞く力」を育成することも肝心になってくると思う。 観点別学習状況評価については、試行実施を終えたところだが、探究ナビのような思考力・判断力・表現力等をしっかりと評価し、更に学びに向かう力や姿をもきっちり評価することが理想だが、大変難しい要素でもある。この点について、観点別学習状況評価自体を何のために実施するかを教職員で共通の理解が必要だと思う。 基礎的な学力を身につけるのも大事だが、社会に出る上での人として基本的な生活習慣なども身につけて欲しいと感じている。学校にはぜひ、そんな部分も大事にして欲しい。 校則などのルールも必要と思うが、高校時代に自主性の範囲を広げ、自律の精神を身につけて欲しい。そんな観点を学校側が意識し、自主性を広げる教育活動を実践して欲しい。 高校生活は人間関係を身につけるには大事な時だと思う。クラブ活動など環境に恵まれると学習面も向上すると思う。 ネット社会の中で、言葉を使うことに今の学生は弱い。探究ナビを中心に学校では、主体的に言葉を交わすコミュニケーション力の向上に向けた教育活動を実践していると思うので、ぜひ、継続してその部分を大切にしていって欲しい。 <p>第3回（書面開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断について、昨年度と比較して概ね肯定的評価が増加しているのはとても良いことで、特に、生徒の「この学校には、他人に自慢できることがある」の評価が13.2%も向上しているのは特筆すべきことでしょう。また、保護者の否定的な評価の増加が見られた「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」も、現在のコロナ禍によることも大きな原因かもしれません。 学校運営協議会からの意見として、地域や社会で起こっている事柄への関心にかんしてですが、近隣で起こっている事を授業のはじめや終わり、学活等で生徒へ知っているかどうかをヒアリングするのも良いかと思えます。自分の意見を発表出来るのは自主性育成に繋がるかと思えます。 授業アンケート、学校教育自己診断の結果について、この2年間を見ると、新型コロナや、タブレット配布等による電子化が多くの場合、良い方向に影響を与えているように感じました。ただ、以前にお話ししたかもしれませんが、それが一過性のものに終わらず、この後にも引き継がれ、実際の教育効果として現れて欲しいと願っています。その意味では、今後の各種アンケート等の結果がより重要であると考えます。
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 2年度値]	自己評価
1 豊かな感性の育成	(1) 多様性を認める人間関係のはぐくみ ア) 居場所としての集団づくり	(1) 多様性を認める人間関係のはぐくみ ア) より良い人間関係が構築できるように、クラスづくりの導入となる活動を取り入れる。また、授業等において、積極的に発表したり、意見が言いやすい雰囲気づくりをめざす。	(1) ア) ①学校教育自己診断（生徒）で「クラスには自分の居場所がある」の肯定率が前年度を上回る[84.1%] ②学校教育自己診断（生徒）で「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定的回答率 85%以上 [82.8%]	ア) ①クラス開きの校内研修実施(4/5)。「クラスには自分の居場所がある」の肯定率 85.6% (○) ②「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定率 81.6%にとどまった。次年度は、探究ナビ、グローバルスタディーズの授業を中心に授業内容の研究・改善に取り組みたい。(△)

大阪府教育センター附属高等学校

	<p>イ) 課題の早期発見</p> <p>ウ) 情報リテラシーの育成</p> <p>(2) 生徒にとって安全で安心な学校生活のための環境整備 ア) 危険予知及び緊急事態への対応能力の向上 イ) 相談できる環境の整備</p> <p>ウ) いじめの未然防止・早期発見・早期対応のための教職員集団</p> <p>エ) 教育相談体制及びガイダンス機能の充実</p>	<p>イ) 支援の必要な生徒の情報を、担任会や教育支援委員会を中心に共有し、課題が深刻化しないように努める。</p> <p>ウ) あらゆる教育活動を通して、適切な情報の収集、発信、活用について啓発を行い、情報リテラシーを高める。</p> <p>ア) ①懸念される現実的な災害を想定した訓練を実施する。 ②感染症拡大による臨時休校等の緊急事態に備え、連絡体制を整える。</p> <p>イ) ①教科の準備室や職員室付近で気軽に質問や相談ができる場を拡充する。 ②部活動における複数顧問等による役割分担、終了時間を定めた会議の運営により、相談時間が確保できるようにする。</p> <p>ウ) アンケート等を効果的に活用し、課題の把握に努め、教育支援委員会等により教職員間で情報を共有し、深刻な問題に発展しないよう未然防止に努める。</p> <p>エ) 多様な進路を実現するため、相談しやすい体制づくりを進め、将来を見据えた科目選択を支援する。また、相談体制を整えるための教員研修を実施する。</p>	<p>イ) 学校教育自己診断(生徒)で「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定的回答率 70%以上 [67.5%]</p> <p>ウ) SNS等、ネット上での課題事象の減少及び課題事象発生時の適切な対応</p> <p>ア) 学校教育自己診断(生徒)で「防災や防犯について、緊急時の行動を知らされている」の肯定的回答率 65%以上 [60.0%]</p> <p>イ) 学校教育自己診断(生徒)で「自分は大切にされていると感じることがある」の肯定率 70%以上 [66.1%]</p> <p>ウ) 学校教育自己診断(教職員)で「いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている」の肯定的回答率 90%以上の維持 [91.2%]</p> <p>エ) ①学校教育自己診断(保護者)で「学校は、生徒をきめ細かく、多面的にサポートしている」の肯定的回答率 70%以上 [67.9%] ②学校教育自己診断(生徒)で「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定的回答率 75%以上 [70.6%]</p>	<p>イ) 「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率 74.6%に達した。引き続き、生徒に教育相談を広報し、相談しやすい環境を作る。(○)</p> <p>ウ) SNS等、ネット上での課題事象は生じなかった。日頃からの先生方からの指導(注意喚起)の効果があったと思われる。(○)</p> <p>ア) 「防災や防犯について、緊急時の行動を知らされている」の肯定率 63.6%だった。次年度は、関係するポスターの掲示等の情報発信を活発に行う。(△)</p> <p>イ) 「自分は大切にされていると感じることがある」の肯定率 72.9%で目標達成。次年度も教育相談体制をより充実させていきたい。(○)</p> <p>ウ) いじめ事象は生じなかった。「いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている」の肯定率 95.5%で目標達成。引き続き、未然防止、早期発見、早期対応の重要性を全教職員で共通認識を深める。(○)</p> <p>エ) ①「学校は、生徒をきめ細かく、多面的にサポートしている」肯定率 70.4%(○) ②「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」肯定率 77.1%で目標達成。引き続き、生徒に教育相談を広報し、活用しやすい環境を整えることでの肯定率の向上を図りたい。(○)</p>
2 確かな学力の育成	<p>(1) 教育センターと一体となった教育実践の研究</p> <p>ア) タブレットを活用した授業についての研究・実践 イ) 観点別学習状況評価についての研究・実践 ウ) 教育センターのリソースの活用</p> <p>(2) 基礎学力の定着をめざした授業研究・改善への取組み ア) 知識・技能の活用を図り、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成</p>	<p>(1) 教育センターのリソースを活用しながら一体となった授業研究や授業実践を行い、その成果を校内で共有するとともに発信する。</p> <p>ア) タブレット1人1台の環境の下での授業について、事務局とも連携しながら実践研究を進める。</p> <p>イ) 観点別学習状況評価の本格実施に向けて、本校の状況に合わせた評価指針を策定する。</p> <p>ウ) 教育センター大ホールを授業の成果発表の機会として活用したり、授業に関するアドバイザーとして指導主事を活用する</p> <p>ア) 授業研究委員会、教科会議において、学力生活実態調査や実力テスト等の結果を分析し、学んだ知識・技能の活用を想定した授業づくりを進める。</p>	<p>(1) ア) 学校教育自己診断(生徒)で「コンピュータやプロジェクタなどを使った授業がある」の肯定的回答率 85%以上 [80.7%]</p> <p>イ) 計画どおりに策定する</p> <p>ウ) 定例の会議や大ホール借用の行事に加え、各教科で複数回、指導主事からのアドバイスや情報提供を受けるようにする。</p> <p>(2) ア) ①授業アンケートで「知識や技能が身に付いたと感じる」の全平均が、前年比を上回る。 [3.13]</p>	<p>ア) 「コンピュータやプロジェクタなどを使った授業がある」の肯定率 90.2%で目標達成。今年度は、全普通教室に電子黒板機能付PJの設置及びタブレットの効果的な使用に関する校内研修を2回実施した。(◎)</p> <p>イ) 授業研究委員会と教務部が連携しながら議論は進めているが完成には至っていない。(△)</p> <p>ウ) 教育C幹部との定例の会議9回、大ホール借用の行事8回実施。指導主事との合同研修2回実施。今後も教育Cとの連携を推進していく。(○)</p> <p>(2) ア) ①「知識や技能が身に付いたと感じる」の全平均 [3.15] (○)</p>

大阪府教育センター附属高等学校

	<p>イ) 学びを活かそうとする意欲の向上</p> <p>ウ) 読解力の育成・充実</p>	<p>イ) 各教科で付けたい力を生徒に伝え、各教科での学びを活用できるような課題を取り入れ、意欲を向上させる。</p> <p>ウ) ①入学当初の授業以外の学習時間を維持し、年次進行とともに増えるよう学習習慣を定着させる。また、適切な課題を設定し、授業以外に学習しやすい環境を整える。</p> <p>②すべての教科で、読解力の育成をめざした取組みを実施する。読書等、文章を読むことを啓発するとともに、引き続き図書室の整備を進める。</p>	<p>②生徒への授業アンケートで「授業内容に興味・関心を持つことができたと感じている。知識や技能が身に付いたと感じる」の全平均が、前年比を上回る。[3.12]</p> <p>イ) 学校教育自己診断(生徒)で「授業はわかりやすく、教え方に工夫をしてくれる先生が多い」の肯定的回答率 68%以上[63.5%]「頑張ろうと意欲をかき立てられる授業がある」の肯定的回答率 60%以上[54.2%]</p> <p>ウ) ①1月実施の1・2年次生対象のアンケートにおいて、ほとんど学習しない生徒の割合を、前年度比で減少させる。[1年次生 46.2%、2年次生 57.6%]</p> <p>②図書室の利用者数(授業での利用を除く)を前年度より増加させる。[12月末現在 326人]</p>	<p>②「授業内容に興味・関心を持つことができたと感じている。知識や技能が身に付いたと感じる」の全平均 [3.13] (○) 引き続き、授業研究委員会をさらに充実させ、授業研究、改善に取り組む。</p> <p>イ) 教え方に工夫をしてくれる先生が多い」71.4%(○)「頑張ろうと意欲をかき立てられる授業がある」(63.6%)で目標達成(○)今年度は、授業公開週間を1回公開研究授業者6名が実施。次年度はさらに回数を増やすなど充実させたい。</p> <p>ウ) ①ほとんど学習しない生徒の割合、1年次(55.9%)(△)、2年次(42.7%)(○)だった。適切な課題を与えること、やる気を引き出す評価などについて、授業研究会に働きかけ、さらなる改善を求める。</p> <p>②図書室の貸出数 年度末[305人](△) (4,5月はコロナ予防のため閉館) 昼休みの放送、月ごとの図書館だよりの発行などを継続し、利用者を増やしたい。</p>
<p>3</p> <p>あくなき探究心の育成</p>	<p>(1) 探究活動の充実</p> <p>ア) 探究ナビの再構築</p> <p>イ) 「社会人基礎力」の育成</p> <p>(2) 自ら学ぶ生徒の育成</p> <p>ア) 学ぶ力の育成</p> <p>イ) 希望進路の実現</p>	<p>(1) 探究ナビをはじめとする探究活動を充実させ、その成果を発信する</p> <p>ア) 本校教育活動の軸と位置付けている探究ナビ再構築の最終年度として、3年間を見通した指導計画を策定する。</p> <p>イ) 各教科で「社会人基礎力」(実社会で必要かつ役立つ力)の育成を意識した内容を授業に取り入れ、成果を検証する。</p> <p>(2) 自ら学ぶ生徒を育成する。</p> <p>ア) 授業以外での学習習慣をつけさせるとともに、学ぶ意欲を喚起し、生徒の進路実現を図る。</p> <p>イ) 一人ひとりの希望進路を実現するため、将来を見据えた科目選択を含む教育課程を編成するとともに、講習等の個別の支援を実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア) 学校教育自己診断(保護者)で「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」の肯定的回答率 83%以上[81.6%]</p> <p>イ) 学校教育自己診断(生徒)で「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定的回答率が前年度を上回る[80.8%]</p> <p>(2)</p> <p>ア) 卒業時の進路未定者を3年次生徒の3%以内にする。</p> <p>イ) 計画どおり編成、実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア) 「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」85.9%で目標達成。(○)</p> <p>イ) 「将来の進路や生き方について考える機会がある」89.0%で目標達成(○)。探究ナビやGSの授業を通して、将来の進路や職業などについて考える機会を十分に与えたことが評価に繋がったと思う。併せて、3年間の指導計画が完成した。次年度はさらなる充実を図りたい。(◎)</p> <p>(2)</p> <p>ア) 卒業時の進路未定者 2.6%</p> <p>*年度末に記入します 丁寧な個別の進路指導を実施することで、進路未定者を少なくする。</p> <p>イ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路HR: 1年5回、2年6回、3年11回 ・進路だより 1年2回、2年2回、3年5回 ・科目選択説明会: 各学年2回実施 ・進路別説明会各学年2回実施 ・夏期講習: 3学年延べ492名受講 ・冬期講習: 3学年延べ120名受講 <p>[]=R2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年制大学合格者 126名[108] ・短期大学合格者 24名[24] ・専門学校合格者 50名[70] ・就職内定者 16名[11]